



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/11 (月)	山の日						
8/12 (火)	▲ 200	▲ 7,900	▲ 8,100	国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	国債補完供給 + 500		米：CPI (7月)
8/13 (水)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000				日：企業物価指数 (7月)
8/14 (木)	トン	▲ 20,000	▲ 20,000	源泉税揚げ 国債発行 (5年)			欧：ユーロ圏GDP (2Q) ユーロ圏鉱工業生産 (6月)
8/15 (金)	▲ 1,000	+ 78,000	+ 77,000	年金定時払い 国債発行償還 (個人)			日：鉱工業生産(6月) 米：小売売上高(7月) 鉱工業生産(7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、法人税・消費税・保険揚げ等の要因により前営業日対比6兆3,300億円減少の520兆600億円から始まった。その後、国債発行等の要因により減少し、8月8日は518兆6,500億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.476%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.478%～0.610%のレンジ、1M～3M物0.530%～0.700%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、8月13日に企業物価指数(7月)が公表される。海外では12日に米CPI（7月）、14日にユーロ圏GDP(2Q)、15日に米小売売上高（7月）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.53 ～ 0.65
2M	0.54 ～ 0.70
3M	0.58 ～ 0.70
6M	0.65 ～ 0.85

<レボ>

足許GCは週を通して+0.485%～+0.495%の狭いレンジで取引された。買い入れオペのあった6日や、短国の発行が重なる8日の取引も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470～475回債、5年155～179回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ～ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,200億円で、週間償還額の9,400億円を上回った。発行残高は先週末時点の25兆8,120億円から、8月7日時点で25兆5,283億円に減少した。発行市場は、機械、鉄鋼、化学、電気機器、卸売業で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物では、発行残高の積み上がった銘柄の発行案件が目立ち、0.50%台半ばでの出会い、3か月物では、0.50%台後半から、0.60%台前半を中心に発行が見られた。

来週の償還額は6,900億円となっている。発行市場は、事業法人の長期休暇が重なり、落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、先週に引き続き、次回会合での利上げを織り込みながら、レート水準を探る展開が見込まれるだろう。

<TDB>

7日の6M（1323回債）の入札は、最高落札利回り0.5046%（前回債0.4421%）、平均落札利回り0.4945%（前回債0.4283%）となった。

8日の3M（1324回債）の入札は、最高落札利回り0.4242%（前回債0.4368%）、平均落札利回り0.4083%（前回債0.4321%）となった。

来週の入札は8月15日に3Mが予定されている。